

小水力発電で地域活性化を

北鷹高生が探究学習

秋田北鷹高校緑地環境科の生徒たちが、北秋田市内への小水力発電導入による地域活性化をテーマとした探究学習に取り組んでいる。関係機関が協力し、7～9月に全7回のワークショップを開催。生徒たちは、来月開かれる北秋田市産業祭で「政策提案」としてアイデアを発表する。

北鷹高と秋田大、秋田県信用組合、県、市の連携事業。人口減少と少子高齢化、産業の停滞、発信力不足といった課題について、豊富な水資源を生かしたエネルギー産業の創出を通じ、高校生の柔軟な発想を生かして解決の糸口を探る目的がある。

7、8月は県クリーンエネルギー産業振興課の職員らが講師を務め、国内や県内のエネルギー事情や水力発電の仕組み、小水力発電のメリットと先進事例を学んだ。8月21日には県営水力発電所の山瀬発電所（大館市岩瀬）と、小水力発電の導入に適した立地

北秋田 仕組みや先進事例学ぶ

がある小又川（北秋田市根森田）を視察した。

同25日には校内で3～5人ずつ4グループに分かれ、電力量を計算して収支をシミュレーション。発電所の名称や電気の使い道についてアイデアを出し合った。各グループからは「名前は『大太鼓発電所』でどうか」「商店街にに

ぎわいをつくるための電力事業に」「脱炭素で徹底的に環境に優しい発電所を造る」などの意見が出た。

今月からは、秋田大未来研究統括機構の伊藤慎一教授を講師に北秋田市内の地域課題を整理し、発表に向けた具体的なビジョンの作成に取り組んでいる。発表の場となる市産業祭は10月17、18の両日、鷹巣体育館で開かれる。

（小松田直嗣）



小水力発電の適地として、小又川を視察する秋田北鷹高の生徒ら＝8月、北秋田市根森田